

指定管理者評価シート

事業名	こども劇場管理運営	所管課(電話番号)	子ども未来局子ども育成部 子どもの権利推進課(211-2942)
-----	-----------	-----------	-------------------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市こどもの劇場 やまびこ座	所在地	東区北27条東15丁目1-1
開設時期	昭和63年(1988年)6月	延床面積	1495.37㎡
目的	人形劇、児童劇等の制作及び発表と制作団体の育成を通じて青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他活動に資する。		
事業概要	人形劇等の制作・発表の場の提供、人形劇等の制作に関する指導ならびに資料収集・情報提供、講習会・展示会・講座		
主要施設	ホール、会議室(1室)、研修室(1室)、美術工作室(1室)、ロビー・展示室		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会		
指定期間	平成30年(2018年)4月1日～令和5年(2023年)3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由:札幌市こどもの劇場「やまびこ座」は、全国でも数少ない子ども専用劇場として、子どもを対象とした人形劇、児童劇等を専門に取り扱う施設であるという特殊性から、指定管理者には貸館業務にとどまらず、専門的知識や豊富な経験を有する適正な人材を確保し、指定管理者自らが人形劇、児童劇等の制作及び発表を行うこと、並びに担い手である制作団体を育成することが求められ、特に担い手の育成については専門性と継続した取組が不可欠であるため。		
指定単位	施設数:1 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、事業の計画・実施業務、施設の使用承認業務等		
3 評価単位	施設数:1 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和2年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価								
1 業務の要求水準達成度											
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>「未来ある子どもたちの夢はぐくむ劇場づくり」 札幌市こどもの劇場やまびこ座は、『人形劇、児童劇等の制作及び発表と制作団体の育成を通じて、青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他の活動に資すること』を目的に設置された施設である。 全国的にも珍しい子どものための専門劇場であり、子どもたちが人形劇や演劇等に親しみ、笑顔あふれ、夢を持って育つことを願い、運営を行うことを基本方針として策定した。</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>人形劇や演劇等の子どものための舞台表現活動を行う団体に対して広く開かれ、優れた作品を安価で上演できる劇場運営を基本方針とし、劇場の職員として、子どもとその家族が中心の観客を温かく迎え入れる役割を持つと同時に、そこで上演する団体の支援者となることに努めた。</p>	<p>施設設置の理念に基づき、基本方針を策定した。市民にとっての劇場のあり方と、地域における劇場の役割を具体化し実践した。また、当方針を達成するため全職員が意識を1つにして、親しみやすい温かな雰囲気劇場作りに努めた。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">A</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">B</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">C</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 施設の設置目的及び役割等を踏まえた基本的な方向性が明確化された方針となっている。 また、施設の特徴を踏まえ、平等利用とともに、専門性を供いながらも市民目線のサービス提供が積極的になされている。 今後も施設の設置目的に基づいた施設管理を継続して行っていくこと。 </td> </tr> </table>	A	B	C	D	施設の設置目的及び役割等を踏まえた基本的な方向性が明確化された方針となっている。 また、施設の特徴を踏まえ、平等利用とともに、専門性を供いながらも市民目線のサービス提供が積極的になされている。 今後も施設の設置目的に基づいた施設管理を継続して行っていくこと。			
A	B	C	D								
施設の設置目的及び役割等を踏まえた基本的な方向性が明確化された方針となっている。 また、施設の特徴を踏まえ、平等利用とともに、専門性を供いながらも市民目線のサービス提供が積極的になされている。 今後も施設の設置目的に基づいた施設管理を継続して行っていくこと。											

<p>▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進</p> <p>環境行動マニュアルに基づき、環境を意識して業務を推進した。環境配慮行動を職員や利用者にも周知し、エネルギー使用量の削減に努めた。</p> <p>▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)</p> <p>▼ 統括責任者を1名配置した。 ▼ 事務分掌、緊急連絡体制等を定めた。</p> <p>▼ 人材育成</p> <p>(1)派遣研修(劇場運営関係)</p> <p>国内外の人形劇関係機関及び児童文化関係施設との連携を密にすることで、職員の専門性向上に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地支援活動「福島県への継続文化支援活動」 <ul style="list-style-type: none"> ①9月13日(日)～14日(月) 職員2名 ※リモート実施 ②12月9日(水)～10日(木) 職員2名 ※リモート実施 ③12月19日(土) 職員2名 ※リモート実施 ④3月11日(木)～14日(日) 職員2名 ・第12回砂川人形劇フェスティバル 3月20日(土)～21日(日) 職員3名 ・「こどものまなび塾」参加 10月1日(木)～4日(日) 職員2名 10月24日(土)～25日(日) 職員1名 ・「こども文化セミナー」参加 3月6日(土) 職員2名 ・児童文化関連施設視察(愛知県) 10/24(土)～26(月) 職員2名 <p>(2)こどもの劇場・こども人形劇場職員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修(劇場の理解等) 4月9日(木)・16日(木) 職員6名 ・舞台照明研修 4月3日(金)～4日(土) 職員2名 ・舞台音響研修 4月5日(日)・8日(水) 職員2名 ・人形劇ゼミナール(人形劇指導研修) 4月23日(木)～7月23日(木) 職員6名 ・防災研修 9月8日(火) 職員5名 ・将来構想/広報戦略プロジェクト 通年 職員6名 <p>(3)公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階層別研修 ・目標管理制度 ・情報リテラシー研修 ・ハラスメント研修 	<p>環境行動マニュアルに基づき、各エネルギー(電気、水道、ガス)の節約に努め、施設運営を行った。</p> <p>人形劇や児童劇の事業担当、舞台照明・音響の専門職員をはじめ、管理を担当する職員を適正に配置し組織だった運営を行った。</p> <p>劇場職員として専門性を高めるため、児童文化関連施設や各種事業・研修会に職員を派遣し、職員一人ひとりが創造者として利用者と関わるべく多様な場で研鑽に努めた。</p> <p>2つのテーマ(将来構想/広報戦略)における課題の洗い出しと業務改善を行うプロジェクトにより、劇場職員としての意識向上と、人材育成の両面から成果に結びつけることができた。</p> <p>公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修計画に基づき、各職員の資質向上を目指した研修を実施した。</p>	<p>管理運営組織は適性に確立されており、緊急時の体制も整っている。派遣研修に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により、リモートによる活動が中心となったが、子どものための専用劇場という特異な施設であることを念頭において十分な事業が実施されている。加えて、指定管理者としてふさわしい資質を備えた職員育成のための研修についても実施されている。今後も継続して、職員の資質を向上させ、利用者満足等に反映されるように努めること。</p>
--	---	--

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

- ▼ 都度ごとの担当者会議のほか、月1回の定例的な職員会議を実施し、情報の共有及び業務の改善、事業の見直しを行った。また、日常的に情報を共有できるよう、コミュニケーションの円滑化に努めた。
- ▼ 日常業務のブラッシュアップを全職員で行い、業務効率の向上を図った。また、施設点検による安全面の確認を行った。
- ▼ 職員によるプロジェクトを組織し、職員一人ひとりが業務の質を上げ、先見的な方向性を打ち出せる人材の育成を目指した。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

- ▼ 下記の業務について再委託を行い、当該契約に基づき、必要な指導、指示及び検査を行った。

	業務名	契約業者名	実施月	契約方法
1	清掃	東亜産業(株)	通年	指名競争入札:複数年
2	機械警備	帝国セキュリティ(株)	通年	指名競争入札:複数年
3	自動扉保守点検	三和シャッター工業(株)	6・11・3月	随意契約(特命):複数年
4	空調衛生設備保守点検	パナソニック産機システムズ(株)	通年	随意契約(特命)
		(有)ケンプラック	5・6・7・8・1月	随意契約(特命)
		北菱産業埠頭(株)	8・2月	随意契約(少額)
5	オーバースライダードア保守点検	三和シャッター工業(株)	6・11・3月	随意契約(特命):複数年
6	消防用設備等保守点検	(株)ヤシマ保全	4・10月	指名競争入札:複数年
7	舞台吊物及び照明設備保守点検	(株)池下電設	6・2月	随意契約(特命)
8	舞台音響設備点検業務	(株)池下電設	6・2月	随意契約(特命)
9	除排雪	(有)阿部組	12~3月	指名見積合せ
10	自家用電気工作物保安管理	大崎電気管理事務所	通年	指名見積合せ:複数年
11	塵芥収集	(一財)札幌市環境事業公社	通年	随意契約(特命)
12	建築基準法12条に基づく点検	(株)ヤシマ保全	8月	随意契約(少額)

財団内の他部門との情報共有や協働実施を行い、より質の高い事業展開に結びつけることができた。

施設の良好な維持管理のため、事前に承認を得た業務について専門業者への再委託により行った。

定期的な会議を実施するなど、業務改善に向けた取り組みを実施したことは評価できる。引き続き、情報共有や日常業務の見直し改善を継続するとともに、管理水準の維持向上に努めていくこと。

第三者に対する委託業務等の管理については適切に行われていることから、今後も継続して、施設の良好な維持管理に努めること。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整（運営協議会等の開催）

開催回	内容
運営協議会 (第1回) 書面開催 当初予定11 月12日	・新型コロナウイルス対策について ・令和2年度事業報告(上半期) ※新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から書面による報告と意見集約を実施。
運営協議会 (第2回) 3月4日	・令和2年度事業報告(下半期) ・アンケート結果及びセルフモニタリング報告(下半期) ・事業や運営についての意見交換
<p><協議会委員> 札幌人形劇協議会代表、東区市民劇団オニオン座代表、やまびこ座読み語りの会代表、小樽商科大学特任名誉教授、札幌市子どもの権利推進課長、札幌市こどもの劇場館長、札幌市こども人形劇場館長</p>	

開催回	内容
夏まつり実行 委員会 6月～8月	夏まつりを地元町内会等の地域団体と実行委員会を組織し実施している。 ※新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止とした。(当初予定8月15～16日)
<p><委員会構成> 東栄すずらん町内会、北栄地区青少年育成委員会、札幌東子ども劇場、札幌人形劇協議会、ラポール元町第二管理組合、札幌東更生保護女性会、社会福祉法人さっぽろひかり福祉会</p>	

開催回	内容
利用者説明会 12月22日	・施設利用、劇団育成支援事業について ・新型コロナウイルス対策について ・公演スケジュール調整 ・各劇団の近況報告
<p><参加者構成> 利用団体・劇団</p>	

開催回	内容
札幌劇場連 絡会	札幌市内の劇場の発展及び社会的地位の向上を図り、舞台芸術の振興と舞台芸術による地域振興を目的とする団体に参加し、定例会議の参加による情報交換と協働事業を実施した。
<p><連絡会構成> シアターZOO、演劇専用劇場BLOCH、札幌市教育文化会館、コンカリーニョ、ターミナルプラザことにパトス、サンピアザ劇場、cube garden、イベントスペースEDiT、やまびこ座、こぐま座、(札幌市文化振興課)</p>	

運営協議会を設置し、委員の方へ事業実施状況等の報告を行い、施設運営についての意見交換を行った。

運営協議会や利用者説明会を実施し、利用者のニーズ把握に努めており、評価できる。引き続き、関係機関との連携を図り、より良い施設運営につなげていくよう努めること。

また、新型コロナウイルス感染症に係る対応について、関係団体と相互理解を深めることができている。今後も、連絡調整を継続し、安心安全な劇場運営に努めること。

例年地域団体と協働実施している夏まつりは新型コロナウイルスの影響により中止を決定した。

利用者説明会では、施設からの連絡事項や感染症対策の伝達、各劇団からの近況報告を行い、利用者との相互理解の場となった。

劇場連絡会に参加し、市内の他劇場との情報交換の場となった。特に今年度は新型コロナウイルス対応についての情報交換により劇場運営に役立てることができた。

	<p>▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施している。 ▼ 金銭等の取扱いについては、当財団が定める処務規定及び財務規程、金券等取扱要領に基づき、適正に経理事務を行った。 ▼ 当財団における内部監査の実施や、公認会計士による外部監査を導入している。 <p>▽ 要望・苦情対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 「迅速・適切・真摯・平等」で「利用者の立場に立つ」対応を心掛けた。 ▼ 意見箱を設置する等、日頃から市民の声を聞くことができる環境を整えた。 ▼ ご意見・苦情 2件受理 <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 業務実施に関する記録、帳簿等の整備、記録保管に努めている。(業務日誌、設備点検記録、事業記録、経理書類、現金出納簿等) ▼ 劇団及び観客、事業参加者に対し、アンケート調査を実施し、常に市民からの声に耳を傾けている。 <p>▼ 札幌市による業務財務検査対応 (実施日 3月11日)</p>	<p>現金の取扱いについては、複数職員による確認を行い、金銭事故防止に努めている。</p> <p>職員間で内容を共有し、原因分析を即座に行い苦情の低減に努める体制とした。</p> <p>セルフモニタリングにより自己評価を行い、今後の事業運営につなげた。 アンケートでは総合満足度や対応に関して高い評価をいただいた。引き続き、利用者のニーズの把握により市民サービスの向上に努める。</p> <p>札幌市による業務・財務検査を受け、業務改善に努めた。</p>	<p>業務・財務検査の結果、記録・帳簿等の整備、保管、事業等の報告について、適正な事務処理がなされていることが確認された。</p>
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 職員の勤務時間を適正に管理するため「勤怠管理システム」を導入し、法令遵守に結び付けた。 ▼ 職員の健康管理に係る取組みとして、産業医を導入した。 ▼ 法令に基づき、時間外労働または休日労働させる場合の労使協定(36協定)を労働者と締結し、労働基準監督署に届出を行った。 ▼ 労働者の勤務形態、家族状況等に応じて年金保険、医療保険に加入。また、必要に応じて適正に届出等を実施した。 ▼ 常勤職員のほか1年以上の有期雇用者に対して、1年に1回定期健康診断を実施したほか、再検査の費用負担を行った。 ▼ 正規職員を新たに雇用する際、現在の非正規職員から希望者を募り、内部登用試験を実施した。 ▼ 全ての労働者を労災保険に、条件を満たす労働者を雇用保険に加入した。 ▼ 法人として全ての常勤職員を対象にストレスチェックを実施した。 ▼ 業務内容に応じたシフト制勤務と、職員間連携を徹底することで時間外労働時間軽減に努めた。 ▼ 新型コロナウイルス感染症の対策として、事務室への飛沫防止アクリル板の設置や定期的な消毒、公演対応での防護用品の使用など感染リスク低減に向けた環境を整備した。 	<p>労働関係法令に関する理解を深めるとともに、雇用環境の維持向上に向けた取組を行うことができた。</p> <p>新型コロナウイルス対応では、職場環境の整備と、可能な限り出勤者を減らす取組により、安心して仕事ができるよう努めた。</p>	<p>A B C D</p> <p>労働関係法令遵守のための取組が積極的に行われている。独自にストレスチェックを行うなど、雇用環境の維持向上に向けた取組も進められていることは評価できる。今後とも労働関係法令遵守及び雇用環境の維持向上に努めること。</p> <p>加えて、新型コロナウイルス感染症対策として、職場環境の整備に努めること。</p>

(3) 施設・設備等の維持管理業務	<p>▽ 総合的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 日常的に点検を行い、常に最良の状態を保つよう管理した。また、職員間の情報共有により、危険箇所の早期発見、事故の未然防止に努め、利用者の安全確保に繋げた。 ▼ 拾得物の取扱いについては、対応フローを作成し適正な取扱いを行った。 ▼ 保険は管理業務仕様書にある内容を補償するものに加入し不測の事態に備えた。 <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 再委託により実施する業務については、専門業者に依頼し、適切な監督と履行検査を行った。 ▼ 備品管理については、日常的に点検、清掃等を行い、故障が著しい備品については随時更新するなどし、維持管理に努めた。 ▼ 敷地内の植木植栽物については、美観の保持、安全面、近隣住民への配慮等の点から、適切な維持管理を行った。 ▼ 駐車場内での事故等に十分注意し、利用者以外の進入がないよう、車両の監視、誘導等に努めた。 ▼ 施設・設備等の不備や故障については、速やかに修繕を行った。 <p>▽ 防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 防災計画を策定するとともに、利用者及び職員の参加による防災研修及び訓練を実施した。 第1回 9/8(参加人員13名) <ul style="list-style-type: none"> ・消防設備の使用法及び通報・消火・誘導訓練(外部講師) 第2回 3/11(参加人員6名) <ul style="list-style-type: none"> ・通報・避難誘導訓練 	<p>日常的に施設及び設備について機能全般の良好な維持に努め、市民が利用しやすい施設運営を行った。</p> <p>法令に基づき、点検・検査を実施し、施設機能の良好な維持管理を行った。</p> <p>日常的に、施設利用者に対しても利用上の注意や安全確認について留意するよう促した。</p> <p>9月の訓練では、防災研修として施設設備の専門業者に講師を依頼し、劇場の設備の使用法や、効果的な避難誘導、消火訓練を実施し不測の事態に備えた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> 専門業者への再委託を含め、施設全体が良好に維持管理されている。引き続き、市民サービスの向上及び施設の安全性に配慮した維持管理を行うこと。 </td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 多くの子どもたちが利用する施設であるという施設の特性を踏まえ、防災研修・訓練等について、引き続き、日頃の備えを行うこと。 </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	専門業者への再委託を含め、施設全体が良好に維持管理されている。引き続き、市民サービスの向上及び施設の安全性に配慮した維持管理を行うこと。				多くの子どもたちが利用する施設であるという施設の特性を踏まえ、防災研修・訓練等について、引き続き、日頃の備えを行うこと。			
A	B	C	D												
専門業者への再委託を含め、施設全体が良好に維持管理されている。引き続き、市民サービスの向上及び施設の安全性に配慮した維持管理を行うこと。															
多くの子どもたちが利用する施設であるという施設の特性を踏まえ、防災研修・訓練等について、引き続き、日頃の備えを行うこと。															
(4) 事業の計画・実施業務	<p>▽ 児童文化の普及及び子どもの健全育成のための公演・展示会・講座等の開催に関する業務</p> <p>令和2年度はコロナ禍により休館措置や収容人数の制限、感染対策を施した上での事業実施等、これまでの常識が通用しない事態となった。そのため、今年度計画していた事業が中止や延期、内容変更となり、事業計画の再考を迫られることとなった。その中で劇団と協働し創意工夫のうえ事業を継続することができた。</p> <p>【公演事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 新型コロナウイルスによる5月末までの臨時休館により、春休みやゴールデンウィークの特別公演を含めて全ての公演事業が中止となった。国や業界団体の指針を基に札幌市と協議のうえガイドラインを策定し、感染対策を講じて7月の公演再開を目指した。7月～8月の公演は、感染症対策のノウハウの蓄積と劇団の負担を考慮し、「がんばフェス～がんばろう北海道！がんばろう子どもたち！」と銘打ち、劇場主催事業として実施した。感染リスクを軽減する取組みとして、屋外公演「あおぞらキッズシアター」と夜間屋外公演「ほしぞらキッズシアター」を実施し、新しい劇場スタイルとして定番化し好評を得ることができた。 ▼ 例年こぐま座で中島公園と共催実施していた冬の野外劇場事業を、やまびこ座敷地で初めて実施した。文化庁が全国で実施するライブエールプロジェクトの一環として行い、雪像の舞台での人形劇やパフォーマンス・人形浄瑠璃の公演を行い、北国札幌らしさの演出で一定の評価をいただいた。 	<p>今年度は、コロナ禍という不測の事態によって、これまで当たり前とできてきたことに対する再考を余儀なくされた。しかしながら、文化芸術の意味や子ども文化施設としての役割を、改めて劇団とともに考える機会を得ることができたほか、単なる災禍で終わらせないという前向きな姿勢を打ち出せたと感じている。</p> <p>公演回数等の目標数値の達成はできなかったが、7月以降、この状況下で諦めずに継続した形での公演を続けることができたことは、これまでのこぐま座、やまびこ座の実績と劇団の努力によるものと考えている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、努力目標である公演回数等、目標数値の達成はできなかった。しかしながら、屋外公演など新しいスタイルの公演を実施し、北海道らしい劇場のあり方を打ち出すことができたことは非常に評価できる。 </td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一部の公演が中止となったことは残念だったが、関係劇団等との連携を図りながら、コロナ禍における文化芸術の発信方法を引き続き検討し、事業展開すること。 </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	新型コロナウイルス感染症の影響により、努力目標である公演回数等、目標数値の達成はできなかった。しかしながら、屋外公演など新しいスタイルの公演を実施し、北海道らしい劇場のあり方を打ち出すことができたことは非常に評価できる。				新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一部の公演が中止となったことは残念だったが、関係劇団等との連携を図りながら、コロナ禍における文化芸術の発信方法を引き続き検討し、事業展開すること。			
A	B	C	D												
新型コロナウイルス感染症の影響により、努力目標である公演回数等、目標数値の達成はできなかった。しかしながら、屋外公演など新しいスタイルの公演を実施し、北海道らしい劇場のあり方を打ち出すことができたことは非常に評価できる。															
新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一部の公演が中止となったことは残念だったが、関係劇団等との連携を図りながら、コロナ禍における文化芸術の発信方法を引き続き検討し、事業展開すること。															

<新型コロナウイルス感染症に起因し中止した公演事業>

- ・春の特別公演 4月
- ・国際こども人形劇フェスティバル 8月
- ・野外人形劇シリーズ(ピノキオ) 8月
- ・札幌国際人形劇フェスティバル 9月
- ・秋の特別公演 10～11月
- ・伝統人形芝居 座・競演シリーズ 10月
- ・プロデュース公演 3月

主な公演事業	ステージ数	観客数
がんばフェス	36	1,498
あおぞら・ほしぞらキッズシアター	8月(8) 9月1 11月2	(421) 48 20
※8月実施分はがんばフェスに含む		
夏の特別公演	(3)	(159)
※がんばフェスに含む		
冬の野外劇場	4	1,007
その他公演事業	106	6,125
計	149	8,698

【講座事業】

▼人材育成事業は、人形劇、児童劇、人形浄瑠璃を中心にこぐま座と連携して実施した。例年春に開講している初心者の人形劇講座は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。しかし、経験者のための人形劇講座は経験者のための人形劇クリニックとしてリニューアルし実施を行った。東区市民劇団育成事業は、地域に根ざす市民劇団として児童劇の演劇ワークショップと、プロデュース公演の制作を実施したが、公演は断念する結果となった。また、人形浄瑠璃講習会、義太夫講習会については、「さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座」と協働し、リモートを活用するなど実施し、札幌における文化の担い手を育成した。

(延べ人数)

主な事業	回数	参加人数
札幌国際大学人形劇ワークショップ	2	112
経験者のための人形劇講座	22	197
人形浄瑠璃講習会	23	433
義太夫講習会	24	284
東区市民劇団育成・プロデュース公演	14	156
計	85	1,182

屋外公演などの新しい公演スタイルは、今後益々重要になってくる。将来的に感染症や様々な災禍の中で、子どもたちへの文化芸術の発信提供を途切れさせないという

各事業に参加した子どもたちが、生き生きと舞台表現活動に取り組み成果をあげることができた。児童会館へと拠点を増やすことにより、人形劇の裾野を全市的に広げることにつながっている。

指定管理者として文化事業の実施と中止の判断を、どのように考え、折り合いをつけていくのか、難しい決断を迫られたことは間違いない。子どもの文化体験機会を絶やさないために、文化の必要性をさらに発信していく努力が問われている。

子どもたちの文化体験の機会を絶やさないためには、人材育成事業は重要な事業のひとつである。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった講座もあったが、リモートを活用するなど、新たなスタイルにより市民劇団を育成し続けているのは高く評価できる。引き続き、地域に根差した、新規劇団の育成を継続すること。

【子どもの舞台表現活動の推進】

▼子ども対象事業は、通年事業として伝統文化関連事業(ぎ・にんぎょうじょうりゅースークラス)、演劇関連事業(やまびこ座遊劇舎、劇☆やまびこ座YOUTH)を実施した。いずれも夏休み以降の開講とし、例年よりもタイトなスケジュールで発表公演を目指した。単発の体験事業としてはこども舞台体験プログラム「ふれアート」を実施し、専門の講師による舞台体験機会を実施した。

▼札幌市内の児童会館(5館)と連携し、人形劇クラブの指導及び育成を行った。各児童会館の子どもたちだけでなく、中心となって関わる児童会館指導員の専門性を高める指導者養成事業の側面もある事業となった。

▼劇団と協働実施した「児童会館おでかけ人形劇」(計23館、934名観劇、劇団延べ43名参加)といった劇場を飛び出した文化発信事業の充実が図られたことは有意義であった。

(延べ人数)

	講座名	回数	参加人数
1	やまびこ座遊劇舎	51	305
2	ぎ・にんぎょうじょうりゅースークラス	22	322
3	劇☆やまびこ座YOUTH	21	393
4	こども舞台体験プログラム「ふれアート」	5	166
5	人形劇クラブの指導・育成	51	463
	計	150	1,649

【地域との共生および関係機関との連携】

▼地域連携アウトリーチ事業では、元町北小学校、道教育大附属中学校、札幌国際大学から依頼を受け指導者派遣、「砂川人形劇指導」では道内他施設への人形劇指導を実施した。

▼地域の町内会や企業、団体と連携し例年実施している夏まつりは町内会と協議し止む無く中止とした。地域に愛され地域に根付いた施設として、今後も地域組織と協働した事業を実施していく。

▼劇場の公演活動の充実や劇団支援、地域連携の活性化を目的として協賛金を募る「事業サポーター制度」を実施し、11件の個人協賛と、3件の企業協賛を得ることができた。(やまびこ座、こぐま座)

【社会貢献事業の取組】

・5月のゴールデンウィークに計画していた被災地支援チャリティー公演は中止となった。

・継続してきた福島県への文化支援活動は、コロナ禍により往来は減らし、リモートを活用した高校生への人形劇指導や、人形浄瑠璃を通じた交流を実施した。今後も劇場ができる人形劇や子どもの遊びを中心とした文化活動が、少しでも子どもたちの心のケアや人々や地域の活性化につながっていくよう、継続文化支援として息の長い活動を行っていく。

コロナ禍だからこそ子どもたちの文化体験機会を守りたいと、教育現場を中心に要望が多く寄せられた。

市民と共ににつくる劇場、地域に根差した劇場運営の観点から、一定の成果が表れていると捉え、今後もこの取組を継続、強化していく。

コロナ禍における継続文化支援ということが、今年度のテーマとなった。リモートを使った試みなど、新たな視点からの事業展開が行われたことは発見でもあり、今後に活かされていくと感じる。

子どもが人形劇等の舞台芸術等に触れるきっかけとなる体験プログラム事業及び児童会館での人形劇指導は、人形劇の裾野の拡大において有意義である。加えて、より本格的に人形劇等の制作等を学ぶことができる通年事業は、青少年の健全育成として相応しく、評価できる。

引き続き、地域と連携した多くの行事を通じて、子どもから大人までの多くの市民が劇場に集い、地域に開かれた親しみあふれる劇場でありつづけること。

リモートの活用等、新たな取組により、文化支援活動を継続することができている。今後とも、新しいスタイルを取り入れながら、事業展開を図っていくこと。

【展示室の活用およびその他】

・読み語りの会の実施等、市民ボランティアの活躍の拠点として展示室を活用し、地域の子どもとその保護者に来館いただく契機とすることができた。
・緊急事態宣言下で在宅する子どもたちのケアや体験機会の創出として、ぬり絵コンテストを実施した。オンラインでの作品募集と、掲示も往来を避けホームページに掲載をした。(530名応募)
・札幌医科大学と協働し、「コロナウイルス撃退大作戦」ポスター・川柳展を実施した。
・こぐま座と共同で人形劇観劇スタンプラリーを実施した。
カード発行枚数:2,406枚

▽ 子どもに関わる舞台活動の拡充に関する情報収集・調査研究・立案及び提供に関する業務

▼令和2年度は、コロナ禍において劇団の活動休止や自粛などの判断が迫られる事態となった。活動場所や公演機会の減少、劇団を存続させていくためのモチベーションの問題など、様々な課題が浮上した。こぐま座、やまびこ座としても劇団の現状を知るために、アンケート調査を実施。コロナ禍における劇団の実状把握に努めた。その結果を基に、施設再開直後に実施した劇場側が主導しての「がんばフェス」の企画、また、11月、12月に実施した「おでかけ人形劇公演」など、劇団への公演依頼や継続した活動機会の提供、さらには地元舞台スタッフの活用など、劇団等への支援という文化施設の根幹の役割を再認識できた。

▽ 劇団育成支援に関する業務

▼ 劇団支援策として「札幌市こどもの劇場やまびこ座支援事業」を実施した。各劇団のホール・研修室・美術工作室・会議室利用について、使用料の一部を負担した。
※申請件数116件、利用区分件数517件
▼ 12月に利用者説明会を開催し、劇団側からの要望を直接聞く場となった。

▼ 市民ボランティア登録者が21名。読み聞かせ等の事業運営スタッフとして活躍いただいた。

▽ 人形劇等に関する指導、相談業務

▼人形劇の制作のための技術的指導ができる職員を配置し、日頃から人形劇について、指導、助言ができる体制づくりに努めた。公演時や稽古時等において、適宜アドバイスを行い、劇団側と協働してより良い作品づくりを目指している。コロナ禍によって講座事業が減少したが、子どもたちへの創造活動は継続することができた。

コロナ禍で大きく集客はできない状況であるが、オンラインの活用等で展示室の活用を図ることができた。

例年、道内外で実施される人形劇フェスティバルは新型コロナウイルスの影響により中止となったことで、派遣交流は叶わなかった。

全国の児童文化施設の調査として、愛知県の4施設を職員3名で視察し、劇場運営の情報収集を行った。

新型コロナウイルス感染症の影響により各劇団の交流の機会が半減することとなったが、劇団と協働でコロナ禍の応援メッセージ動画を制作し、オンラインで公開するなど工夫をして劇場と劇団の接点を作ることができた。

市民ボランティアと協働で事業を実施し、市民の交流と自己実現の場とすることができた。

常日頃からの市民対応が行える体制づくりの強化はもちろんのこと、今回のような感染症において新たな指導方法を模索する必要があると感じている。

関係団体等の調査や情報収集、資料の公開等、舞台活動の拡充に取り組まれており、評価できる。

引き続きプロデュース人形劇をはじめ、市民ニーズを捉え、人形劇文化の発信に努めること。

子どもたちに魅力的な舞台芸術の鑑賞機会を提供するためにも、劇団育成は極めて重要であることから、劇団と連携しながら、育成支援を継続すること。

市民ボランティアとの協力関係が構築されており、共にサービスの向上に努めていることは評価できる。

引き続き、やまびこ座にしかできない継続性のある専門的な指導に取り組むこと。

(5)施設利用に関する業務

▽ 利用件数等

▼ 公演回数・観客数(ホールのみ) (回・人)

	R1実績	R2計画	R2実績
上演回数	175	200	138
出演者数	8,669		4,914
観客数	13,749		5,849
上演1回当たりの観客数	79.0		42.0

▼ 室別利用状況 (件)

		R1実績	R2計画	R2実績
ホール	件数(件)	509	700	439
	人数(人)	22,418	28,000	10,763
	稼働率(%)	65.8		64.3
会議室	件数(件)	270	400	249
	人数(人)	2,825	2,000	1,208
	稼働率(%)	34.9		35.7
研修室	件数(件)	434	550	326
	人数(人)	5,834	7,600	3,822
	稼働率(%)	56.1		46.2
美術工作室	件数(件)	484	550	374
	人数(人)	5,172	7,000	3,778
	稼働率(%)	62.6		53.0
ロビー等	人数(人)	8,085	10,000	5,056
研修見学	人数(人)	132	400	378
合計	件数(件)	1,697	2,200	1,388
	人数(人)	44,466	55,000	25,005

▽ 不承認0件、取消し0件、減免0件、還付0件

▽ 利用促進の取組

▼ 主催事業、主催公演の際、他の公演、事業への呼びかけを行い、宣伝等に努めた。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う緊急事態宣言による外出自粛や、5月までの臨時休館、客席数の半減により、利用目標に届かない結果となった。コロナ禍での劇場利用について、感染症対策を講じた上で、多くの市民に来館いただけるよう知恵を絞っていく。

新型コロナウイルス感染症対策に伴い、客席の人数制限等により、児童劇での利用の減少がある。人形劇だけでなく、児童劇分野の公演実施も当劇場の使命であることから、新たな支援を考えていきたい。

コロナ禍での人数実績は大幅に減少している。感染症対策を講じながらの利用促進に引き続き注力していく。

使用承認について、条例に基づき適正に処理を行った。

A B C D

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため臨時休館せざるを得ない状況となり、利用者総数や公演回数、貸室利用状況等は、計画を下回る結果となった。今後とも、感染症対策を講じながら、安心安全な公演を実施し、市民にとっての魅力を増加させ、さらなる利用拡大に努めること。

<p>(6)付随業務</p>	<p>▽ 広報業務</p> <p>▼ホームページのアクセス数は38,913件で、前年度比(57,787件)67%という結果になった。また、新規アクセスは65%、再アクセスは35%であった。</p> <p>▼ウェブアクセシビリティを考慮し、誰もが利用しやすいホームページ作成を目指した。</p> <p>▼公式SNS(Twitter、Facebook、Instagram)によるリアルタイムでの情報発信を行った。</p> <p>▼定期的に(年6回)こどもの劇場通信(公演情報、事業案内等)をこぐま座と共同で発行し、市内公共施設、関係機関、児童会館等、及びやまびこ座近隣小学校4校へ配布した。また、公演ごとに来館者へ配布した。</p> <p>▼札幌市イベント情報に毎月公演・事業情報を掲載した。</p> <p>▼公演情報を各報道機関等に提供する等、宣伝活動に努めた。</p> <p>▼チラシ・ポスターを作成し、市民への配布のほか、地下鉄駅や劇場館内への掲示を行い周知を図った。</p> <p>▼公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会発行のさっぽろ・こども情報誌「あそぼ」(市内全小学生配布)に、公演情報を毎号掲載した(年6回各10万部発行)。</p> <p>▽ 引継ぎ業務 (前期からの継続指定のため、引継ぎ業務無し)</p>	<p>広報業務は、劇場の認知度向上と観客数に直結する重要なものであるとの認識のもと、常に情報発信を行った。今年度はコロナウィルス感染症による休館やコロナ禍で足が遠のいてしまい集客に苦戦した印象である。ホームページのアクセス数にも影響が見え、対策を講じていることの周知も広報が必要と考えている。また、よりわかりやすく親しみを持ってもらえるよう、ホームページの一部リニューアルを年度末に行った。</p> <p>広報をテーマにしたプロジェクトのワーキンググループを組織し、より多くの市民に来館いただける方策を検討した。公式LINEの開設を行い、今後の本格運用で集客に繋げていく。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>利用者のニーズに合わせ、あらゆる広報手段を活用して、積極的に情報発信をおこなっている。引き続き、紙媒体、ホームページ、SNS、メール通信それぞれの強みを活かした情報発信の手法を検討し、効果的な広報活動に努めること。</p>	A	B	C	D												
A	B	C	D																
<p>2 自主事業その他</p>																			
<p>▽ 自主事業</p> <p>▼ 物品販売事業</p> <p>市民サービスの一環として、ハンドパペットやオリジナルグッズ等の販売を各人形劇公演時に実施。集客の一助やリピーターの確保等につなげ、公演の活性化を図った。</p> <p>実施期間: 令和2年4月1日～令和3年3月31日</p> <p>販売商品:</p> <p>①ハンドパペット: 金額 150円～700円</p> <p>②オリジナルグッズ: 金額 50円～1,785円</p> <p>【販売実績】</p> <p>①ハンドパペット: 販売個数 54個 売上額29,900円</p> <p>②オリジナルグッズ: 販売個数 230個 売上額40,850円</p> <p>合計: 販売個数 284個 売上額70,750円</p>	<p>コロナ禍による観客の減少に比例して売上も落ち込んでいる。引き続き市民の声からニーズを察知し、商品開発を行う。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D					<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>来館者のニーズを取り入れながら、事業展開を行うこと。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D																
A	B	C	D																

<p>▼ 飲料販売事業</p> <p>劇場に公演観劇に来られる来館者や、稽古や舞台仕込みで利用される劇団利用者等に対して飲料の清涼飲料水の販売を行い、市民サービスの向上を図った。</p> <p>実施期間: 令和2年4月1日～令和3年3月31日 販売商品: 清涼飲料水 90円～160円</p> <p>【販売実績】 販売本数: 清涼飲料水 1,786本 収入額: 59,062円(使用料、電気代相当額)</p> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>・第三者に対する業務委託、物品の調達等を行うにあたり、札幌市内の企業等を積極的に活用している。</p>	<p>引き続き、市内企業及び福祉施設への配慮を行う。</p>	<p>引き続き、市内企業及び福祉施設への配慮をおこなうこと。</p>																	
<p>3 利用者の満足度</p>																			
<p>▽ 利用者アンケートの結果</p>																			
<p>実施方法</p>	<p>観客用アンケート、利用者(劇団)アンケート、事業参加者アンケートをそれぞれ作成し実施した。(※アンケート方法については、来館者へアンケート用紙を配付し回収。任意記名方式。)</p>	<p>全体的に総合満足度や職員の接遇に関して、高い評価をいただき目標を達成した。今後も市民のニーズを把握し、観劇する環境をソフト・ハード両面で改善を図っていく。</p> <p>情報を得た手段としてSNS等の割合も伸びてきている。劇場の存在を広く知ってもらうため、メインターゲットである子育て世代の方に情報が届くよう、時代に即した様々な方法を検証していく。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">観客・利用者(劇団)・事業別参加者と3種類のアンケートを実施しており、それぞれのニーズを把握し、よりよい施設運営に反映させようと努力しており、評価出来る。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">アンケートの結果は要求水準を達成しており、観客、利用者、事業参加者のほぼ全てが職員の対応や事業内容に対して満足していることが分かる。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">これは指定管理者の努力の結果であると考えられる。引き続きサービス水準を維持するよう努めるとともに、少数の意見も拾い上げて、より良い施設となるよう努力すること。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	観客・利用者(劇団)・事業別参加者と3種類のアンケートを実施しており、それぞれのニーズを把握し、よりよい施設運営に反映させようと努力しており、評価出来る。				アンケートの結果は要求水準を達成しており、観客、利用者、事業参加者のほぼ全てが職員の対応や事業内容に対して満足していることが分かる。				これは指定管理者の努力の結果であると考えられる。引き続きサービス水準を維持するよう努めるとともに、少数の意見も拾い上げて、より良い施設となるよう努力すること。			
A	B			C	D														
観客・利用者(劇団)・事業別参加者と3種類のアンケートを実施しており、それぞれのニーズを把握し、よりよい施設運営に反映させようと努力しており、評価出来る。																			
アンケートの結果は要求水準を達成しており、観客、利用者、事業参加者のほぼ全てが職員の対応や事業内容に対して満足していることが分かる。																			
これは指定管理者の努力の結果であると考えられる。引き続きサービス水準を維持するよう努めるとともに、少数の意見も拾い上げて、より良い施設となるよう努力すること。																			
<p>結果概要</p>	<p>アンケート結果を集約し、利用者の意見、要望、苦情、ニーズ等を把握し、施設設備、業務等の改善に反映させるよう努める。なお、回収したアンケートについては、札幌市個人情報保護条例に基づき、取り扱いに十分留意し、保管整理、廃棄している。</p>																		
<p>利用者からの意見・要望とその対応</p>	<p>【観客用アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収枚数は目標(1,200枚)未達成。(コロナ禍による臨時休館及び利用制限に起因) ・回答者の年代は、子育て世代の20～40台が23%と小学生が25%と多い他は、偏り無く回答いただいた。 ・公演情報の取得方法としては、「友人、知人」の口コミが最も多く(22%)、次いで「チラシ・ポスター」(18%)、「劇場HP」と劇場通信が(17%)であった。友人知人が昨年度(33%)から11%下落し、Twitter・Facebookが昨年度(2%)から今年度(18%)と16%上昇しているのは、時代に即した広報手段へのシフトに注力した成果が表れている。 ・観劇環境については、高い評価を得ることができた。 ・初めての来館者が24%で昨年度(31%)から下落している。コロナ禍で初めての来館は敬遠され、施設の様子や状況について既知なりピーターの来館割合が多かったと考察できる。 																		

【利用者(劇団)アンケート】
 ・回収17枚と、目標(20枚)未達成となった。
 ・支援体制(施設的环境、サポート体制)及び、施設サービス(利用のしやすさ、職員の対応、手続き)のすべての項目について、全ての劇団から高い評価を得ることができた。
 ・コロナ禍における劇団アンケートを実施し、50劇団から回答を得た。(回収率77%:劇団65劇団中50劇団から回答)
 コロナ禍における劇団の実状把握を行い、劇団支援に繋がった。

【事業参加者アンケート】
 ・主催事業より、実施した講座等10事業についてアンケートを実施した。
 ・事業内容及び職員の対応や講師について、全ての参加者から高評価をいただき、満足度は高い。

劇団アンケートの結果から、職員の対応や支援体制について高い評価をいただいた。今後も引き続き、利用者と職員がよりよい関係を築いていけるよう支援していきたい。

満足度は高く、ニーズに合致した事業展開と読み取れるが、記述欄には多くのアイデアやご意見をいただいている。職員・講師間での情報共有、検討を行い、より良い事業実施に繋がっていききたい。

4 収支状況

▽ 収支 (千円)			
項目	R2計画	R2決算	差(決算-計画)
収入	78,157	57,634	▲ 20,523
指定管理業務収入	77,908	57,504	▲ 20,404
指定管理費	46,053	46,053	0
利用料金	6,000	3,763	▲ 2,237
その他	25,855	7,688	▲ 18,167
自主事業収入	249	130	▲ 119
支出	76,119	60,621	▲ 15,498
指定管理業務支出	75,936	60,536	▲ 15,400
自主事業支出	183	85	▲ 98
収入-支出	2,038	▲ 2,987	▲ 5,025
利益還元	0	0	0
法人税等	0	0	0
純利益	2,038	▲ 2,987	▲ 5,025

▽ 説明

▼ 利用料金収入は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う臨時休館や、入場者数の制限等により計画時の収入には届かなかった。
 ▼ その他収入は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け減収となったが、札幌市からの補填により収入を確保することができた。

A	B	C	D
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための臨時休館の影響で、利用料金は減ってしまったが、次年度以降、安定的な運営に向け、改善を続けること。			

＜確認項目＞ ※評価項目ではありません。		適	不適
▽ 安定経営能力の維持 ▼ 当団体の財務状況等は、各事業実施時において収支バランス等を常に把握することで、将来へ向けた安定経営能力は選定時より向上している。			
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 ▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。 ▼ 情報公開請求はありません。 ▼ 札幌市行政手続条例に基づき適正に処理を行っております。 ▼ 協定に関する契約(第三者への委託、物品調達等)について、暴力団員や暴力団関係事業者を相手に契約を行わなかった。			

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>令和2年度は未曾有の感染症により、当初計画していた事業は軒並み中止、延期、内容の変更を余儀なくされ、期中での事業の再考を迫られる事態となった。特に文化芸術が軽視される実態を目の当たりとし、不要不急と言われる中で、どのように文化芸術の意義を見出し、折り合いをつけて行くべきか問われた一年でもあった。しかしながら、自粛期間が長引くほど、心の拠り所となるはずの文化体験の機会が失われ、子どもたちのストレスや発散の場がなくなり、ギスギスした攻撃的な社会が待っていたことも事実である。このコロナ禍を単なる災禍で終わらせないためにも、やまびこ座、こぐま座の役割を打ち出し、劇団とともに感染対策を施しながらこの一年、試行錯誤の上、文化発信が行えたことに大きな意味を持つ。</p> <p>(1)緊急事態宣言による休館措置。さらに開館後も国のガイドラインを基に感染対策の徹底を図るための環境整備を行い、ようやく7月から公演を再開できる運びとなった。収容人数は、座席数の50%の100名限定とし、完全予約制、マスク、検温、消毒、観劇中の換気、ソーシャルディスタンスの確保といった非常に窮屈な対応を取らざるを得ない状況であった。しかしながら、観客の皆様のご理解や劇団の協力により大きな混乱もなく、安心、安全の中で公演を継続できたことは評価できる。</p> <p>(2)公演事業としては、当初予定していた児童劇系の10劇団の公演が中止となる事態となった。原因としては、入場制限の中で経費の採算が取れない、準備期間が無い、感染リスクを回避できないなどの理由によるものであった。その代わりに人形劇を中心としたスケジュールに転換し、毎週の公演を継続できたことは地元人形劇団の底力であり、特筆すべき事項である。数値実績については、全てにおいて目標には届かなかった。特に入場者数制限の影響は大きく、観劇者総数5,849人(R1実績:13,749人)と前年度比42.5%の減少となった。また、利用者総数についても目標値55,000人は遠く及ばず、25,005人という結果であった。しかし、利用件数については、1,388件(R1実績:1,697件)と</p>	<p>基本方針 『未来ある子どもたちの夢をはぐむ劇場づくり』</p> <p>子どものための専門劇場「やまびこ座」「こぐま座」は、子ども文化の鑑賞、発信、創造拠点として、子どもたちをはじめ、市民の方々の可能性を育む場所「地域の文化拠点」として、地域に愛され人形劇や児童劇など、様々な事業を行っている。特に令和3年度は、こぐま座が45周年を迎える節目の年でもあるため、感染症を乗り越え、子どもたちが文化芸術にふれる機会を継続的に確保するため、両劇場、中島児童会館、そして劇団、アーティスト等と協働しながら持続可能な劇場づくりを目指す。</p> <p>(1)子どもたちへ芸術の鑑賞及び体験機会の拡充</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもたちの日常生活において観劇や文化芸術に接する体験の機会が乏しくなっている現状から、感染防止に十分留意したうえでその機会の拡充を図ることで、元気と心の豊かさを取り戻し、明るい未来を描くことができる支援を行う。</p> <p>(2)子ども文化の新たな可能性</p> <p>コロナ禍により模索してきた野外劇場を定番化し、雪の舞台での野外人形劇公演や、北海道のアイヌ民話を題材としたサイト・スペシフィック・パフォーマンス(移動体験型人形劇)を、やまびこ座・こぐま座がプロデュースして制作、札幌スタイルの文化芸術のスタンダード化を目指す。その制作にあたっては、育成する劇団や専門アーティスト、関係機関と連携した取り組みによって、先駆的な作品を創造し、地域の文化芸術の普及に繋げる。また、観光や地域の振興を視野に入れた新しい価値の創造につなげる。</p>

昨年度比の8割を超えており、コロナ禍でも劇団が活動を求めている実態が浮かび上がった。

(3)新たな視点からの公演や事業スタイルを創り出すことにも繋がった。屋外公演「あおぞら・ほしぞらキッズシアター」の定例化、遠隔でも可能となったリモート講習会の実施、やまびこ座内においての雪像ステージ「冬の野外劇場」の実験的な取り組み、インターネットを活用した映像配信等、コロナ禍だからこそ実現した事業でもあった。また、人材育成の根幹である「初心者のための人形劇講座」が中止となったことで、職員自らが創作活動に取り組んだ人形劇ゼミナールは非常に有効な手段となった。新たな作品創造につながり、公演の機動力を増すことにも繋がった。

(4)コロナ禍だからこそ子どもたちの文化体験機会を守りたいと、教育現場や関係団体から、やまびこ座に寄せられる要望が非常に多い年であった。小、中学校での人形劇や人形浄瑠璃のアウトリーチ事業、大学での人形劇ワークショップ指導、また、国の助成事業として、演劇団体と連携した生の舞台芸術を発信する応援プロジェクトなど、これまで培ってきた実績が評価された形でもあった。それに伴い、経費面においても指導料等の企画事業収益の大幅な増に繋がったことは一定の評価ができる。

(3)豊かな子ども文化の街・さっぽろをデザインする

やまびこ座、こぐま座の年間を通じた活発な公演事業を目指すほか、このコロナ禍で見えてきた課題を克服するため、あらゆる劇場空間を演出していく試みを積極的に展開する。将来における劇場の在り方を模索すると同時に、市民が身近に文化に触れることができる豊かな街づくりをデザインする。

【所管局の評価】

総合評価	改善指導・指示事項
<p>施設の維持管理、貸館業務、事業の実施、自主事業、及び施設の管理運営については全般的に適切な業務の執行がなされている。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とした臨時休館や、施設再開後の利用者制限等のため、水準に届かない部分もあったが、屋外公演やリモートでの事業展開など、新しいスタイルを構築し、地域の子供達に寄り添った札幌市の児童文化の拠点施設として、その普及・促進に取り組んでいると評価できる。</p>	<p>施設の設置目的を達成するため、今後とも制作団体の育成を行っていく必要があることはもちろんのこと、コロナ禍において、更なる利用者の増加及び収入の安定を図るため、引き続き市民ニーズを検証するとともに、より魅力的な創意工夫ある事業を展開していくこと。</p>